

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0691500060		
法人名	社会福祉法人長井弘徳会		
事業所名	グループホームリバーヒル長井館町		
所在地	山形県長井市館町南9-72-10		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 5 日	開設年月日	平成26 年 6 月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 6年 2月 5日	評価結果決定日	令和 6年 3月 1日

(ユニット名 ひなぎく)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活気ある商業施設の近隣に当事業所があります。新型コロナウイルス5類移行後も感染対策もあり、以前のように活発な地域交流や参加はできていない状況にはありますが、運営推進会議での地域代表の方を交えた避難訓練や職員が地域の神社の草むしりなどへの協力をしながら、今できる地域との繋がりを行ってきました。ホーム内ではご利用者に季節感を味わっていただくため、色々な行事の催しや手工芸での作品づくり等を行っています。またホームの畑には花や野菜をご利用者と一緒に植え収穫それを調理したりしています。介護計画作成の際は全員で気持ちシートを記入することでご本人様の思い添ったケアができるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※1ユニット目に記載

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に理念の掲示を行い、スタッフ会議で自分たちが目指すケアとして読み合わせを行っている。スタッフ会議やケース検討会の際に理念に添ったケアができていないか確認を行っている。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であったために行事の中止などもあり、ご利用者の積極的な地域行事への参加はできなかったが、火災訓練の際に運営推進員の地域の方の参加や職員が廃品回収の協力、地域の神社の草むしりなどに参加し地域との繋がりと継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通してホームの運営状況やご利用者の日々の生活の様子、職員のケアの様子や関わり方などを発信している。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回 年6回の運営推進委員会を開催し、ホームの運営状況、ご利用者の様子をスライドや書面を通して報告し、推進委員からは地域の活動の様子や情報を伺うとともに、ホームへの助言や意見もらいながらサービス向上へ活かしている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加協力をもらい、市の情報を得るとともに、疑問点や相談事等が生じた場合は市に連絡、相談し助言を得ている。また市の介護サービス相談員の訪問活動も積極的に受け入れることでご利用者の状況やホームの様子を知ってもらう機会となっている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束等の適正化の指針の掲示とともに、どの様な行為が身体拘束にあたるのかを掲示し職員への周知を図っている。また法人での研修の参加、ホーム内での研修をすることで身体拘束をしないケアについて学びを深めている。3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を実施し、身体拘束にあたるケアがないかなど日頃のケアの振り返りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で虐待防止委員会を年2回実施し日頃のケアを振り返りをするとともに、法人の研修の参加やスタッフ会議の中でケアで困っている点などはケース検討や勉強会を行い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援事業や成年後見制度を利用しているご利用者は現在いないが、職員へは制度について知ることができるよう資料の回覧を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決定した際は事前に契約書と重要事項説明書をご家族に渡し、内容を確認頂いた上で入居当日に説明を行い、不明な点や疑問点などをご家族に確認しながら署名、捺印を頂いている。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族代表の方より、意見や要望、質問などを頂く機会を設けている。また3年に1回家族向けにアンケートを実施し、結果を踏まえて検討し運営に反映させている。受診時や面会時などご家族との会話の中からもご意見や要望など伺うことができるよう努めている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて管理運営会議での法人、事業所の決定事項の報告、管理運営会議へホームの状況報告し運営に反映するようにしている。法人への意見、要望については、親睦委員会が取りまとめを行い法人への意見として提案を行っている。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員個々が自己評価表を作成し、役席者と面談を実施。その期間でできたことや課題となった事など振り返りを行い、課題となった部分についてはどのような目標を持ち取り組んでいくかを一緒に考え各自が向上出来るような環境作りを行っている。		
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は、各事業所の研修係が中心となり、研修の案内や研修日誌の管理等を実施している。感染予防の為、ZOOMにて各事業所の代表1、2名が参加し、スタッフ会議を利用して伝達研修や資料の回覧を行い内容を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナの影響もあり他事業所と交流する機会はなかったが、同法人のグループホームと連携を取り、情報交換や意見交換を行っている。		

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望を受け自宅や施設等へ訪問しご利用者の困っている事や要望を傾聴し想いを汲み取れる様に努めている。また、ご家族よりセンター方式のシートを記入して頂き本人の不安や希望を把握して入居の際には安心して入居できる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っている事や困っている事に耳を傾け安心して相談出来る雰囲気づくりに努めている。また、ご家族との話し合いの中で今後の方向性について一緒に考えながら要望も汲み入れより良い関係を築いていける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族との話し合いの中で、本人が必要としている支援は何かを考え、穏やかに安心して過ごして頂ける様の方を見極める努力をしている。入居に際して新しい環境に馴染める様に想いを伺いながら対応する事を心掛けている。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念である「出来た喜びをお互いに感じ笑い声あふれる我が家」を念頭に職員一人ひとりが入居者各々とのより良い関係を築けるようその方を知り、理解して共有できる様に努めている。その方にとって笑いや希望ある日々は何かを考え、ともに寄り添いながら笑顔で過ごし信頼を築いていける様に努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や広報誌を活用しホーム内での様子を報告している。訪問や面会にいらした際にも日頃の様子をお伝えし直接顔を見てお話できる貴重な時間であり、ご家族も安心して帰って頂けるよう表情や言葉遣いに配慮しながら信頼関係を築いていける様心掛けています。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウィルスが緩和され外出の機会が増え市内を車でドライブをすることが出来た。季節を感じながら馴染みのある道や景色を通り昔を懐かしむ事が出来た。また、面会も緩和となり窓越しから対面での面会が可能となり直接ご家族と面会出来るようになり今までの関係の継続が少しづつ増えてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が交流を深める事が出来る様、間に入り会話の橋渡し等の配慮をしている。また、個々の能力を活かしながら作業や手工芸に取り組める様に配慮している。また、ご利用者同士でも関わる事が出来る様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	不安やわからない事があればいつでも相談出来る体制を整えている。退去される際には在宅のケアマネへの情報提供やご家族に連絡をしてほしい旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向や思いを実現出来る様に、日々の言動や行動を記録に残し把握出来るように努めている。個々の気づきを職員間で共有しご本人の意向に添える様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みの暮らしなどの生活状況や環境に合わせた情報把握に努めている。わからない事や状態についてもご家族に確認してご本人に寄り添ったケアに活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日一人ひとりの健康チェックを行い通常との変化があった際に直ぐに気付けるように記録に残し、日々観察し伝達用紙を使用して職員間で申し送りを行っている。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について職員全員からセンター方式のC-1-2シートに記入をしてもらい得られた情報を基に現状に即した介護計画を作成し3ヶ月ごとの評価を行っている。		
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画の実施状況や言動、行動を毎日記録している。3ヶ月毎の評価をして実施状況の確認と見直しを行っている。伝達用紙を活用し職員間の情報共有をしながら実践と見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍においてご家族とのふれあいも出来なかった。面会が解除となり合うことがお一人お一人の満足につながった。ご家族内での状況などにより、困った際には可能な限り対応できることをお伝えした。ご家族からも速慮なく言いやすい雰囲気を持って対応した。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍であるため、外部との交流は出来なかった。感染防止に努めながら今年度は季節のドライブ外出を行い、外気に触れ楽しみを感じることが出来た。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からのかかりつけ医へ受診とし、ご家族の協力を得ながら通われている。受診時には連絡票を作成し主治医へ状態の報告を行っている。又、緊急時やご家族からの依頼や必要時は職員が同行している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人看護師が連携看護師となり週に一回訪問し健康管理と医療面での相談アドバイスを行っている。緊急時または必要に応じてかかりつけ医や救急医療との連携を図っている。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には必要な情報を医療機関に提供している。また、退院に向けたカンファレンス等の招集時に参加をし体調の把握や退院後の生活が円滑に不安なく遅れるよう連携をとっている。		
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際重度化指針の説明を行い署名了承を得ている。重度化した場合ご家族の希望をお聞きしながら、かかりつけ医、連携看護師と常に話し合いの場を設け支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一年間の訓練計画を作成し訓練週間を設けてスタッフ全員が交互に参加している。意見交換や確認をしながらマニュアルの確認や実践を繰り返し行い緊急時に備えている。		
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導のもと、火災訓練を実施している。その際には、運営推進委員の方にも参加して頂いている。水害対策についてはエリア合同での机上訓練や事業所独自でも、毎月の訓練週間時に動きを確認するとともに、マニュアルの確認や見直しを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人権を尊重し声かけや関わりを持って気持ちに寄り添い対応している。職員間でも共有しケアに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者一人ひとりの個性を尊重し思いを汲み取れるよう環境などを整えながら、自己決定ができるよう配慮している。		
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその日の気持ちや体調に合わせて無理なく過ごして頂けるよう本人の意志を尊重しつつ居室やフロアで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝声かけにて本人の洗面用具で整容して頂いている。可能な方には入浴前に着替えを職員と一緒に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はホーム内で職員が調理しており、参加できるご利用者には、調理の前準備、盛り付けや食器拭き、お盆拭き等をして頂いている。その際必ず謝意を伝えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの状態に合わせて食事形態や食事を工夫して提供している。必要時には法人の言語聴覚士に相談するなど食事形態があっているか助言を受けている。職員間での共有も行っている。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行っている。義歯洗浄剤を使用したり、コップや歯ブラシの消毒を行って口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄板を使用し、お一人おひとりの回数や便性、排泄パターンを観察している。また、入浴前にトイレ誘導を行ったり、定時誘導を行い、声かけのタイミングに配慮しながら自立支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況は毎日確認している。リハビリ体操は毎日日課で行っている。午前のお茶会では好きな飲み物を、午後のお茶会ではお茶を飲んで頂いている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前に事前に声かけを行っている。本人の意志や体調を確認しながら実施し、入浴中は会話などをもちながら行っている。気分が乗らない日があれば、翌日にずらすなどの対応を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者それぞれの好みに合った室内灯の調光、室温等に配慮している。午睡時の淋しさを訴える利用者にはフロアのソファでも休めるよう準備している。また各居室には飾り物や家具など利用者が慣れ親しんだ物を持参して頂き安心して繋げている。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員二名で処方箋の確認をしながら薬理由を行っている。1週間分の薬を並べ名前と個数に間違いがないよう注意を払っている。服薬時には薬ケースから持ち出す際と利用者前の二度声に出し復唱している。薬変更時には開始時期、注意点副作用等、職員間で共有、記録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の習慣があった利用者には食器拭きや食事の盛り付け、洗濯たたみ等を担って頂いている。ハーモニカが得意な利用者には足踏み体操の伴奏を担当して貰う等、一人ひとりの得意分野を活かし毎日の暮らしに張り合いが生まれるよう工夫している。最後に感謝の言葉を伝えている。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響により外出の機会は減っていたが法人の制限範囲内での桜見学や紅葉見学等のバスハイク、ホーム周辺での散歩を実施していた。コロナが五類へ移行になってからは自宅へ外泊する利用者も出てきている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を自己管理しているご利用者はご家族と金額の確認をし職員間で共有している。またご利用者間でトラブルにならないよう注意している。現在はコロナウイルス感染防止のため買い物支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ケアプランとして電話の支援を上げている。機会は少ないが、ご利用者の気持ちが落ち込んでいるときなどにご家族に電話を繋ぎ、安心できるよう支援行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者一人ひとりの心身の状態に合わせて快適に過ごすことができるように環境を整えている。手工芸で季節の飾りつけを工作し、季節感を感じることができるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者同士の関係性を考慮しながら、フロアでの席順を配慮している。また、畳の部屋でくつろぐことができるようスペースを設け、必要時に休めるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者が以前使用していた家具を持参され、居室内に設置している場合もあるが、物が多い環境だと、不穏になる方もおられるため、その方に合わせて快適に過ごすことができるよう居室内の環境を整えている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が混乱しないよう、トイレ等場所の名称や、どの様に使用するか明示している。また、ご利用者が使用しても安全のように、危険なものはなるべく手の届かない所においたり、使用頻度の高いものは使いやすい場所に置いたり工夫している。			